

難所「権太坂」を目前に、
歩みを踏みしめる



時代末期、保土ヶ谷で最も大きい
屋があり、明治6年(1873年)に
ヶ谷小学校の分校となりました。

2 きゅうかたびらばしあと
旧帷子橋跡

安藤広重の浮世絵で新町橋として有
名。河川改修により川の流れが変わっ
たため、天王町駅前公園内にモニュメ
ントとして残されています。



昔からの地域の氏神で、人々に「お天王様」といって崇められていました。境内には、横浜市内最古といわれる庚申塔があります。

1 たちばなじんじゃ
橋樹神社



慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道に宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起點となり、その後、五街道を中心に一里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これから姿を見つめましょう。

東海道四百年の歩みを踏みしめる



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約260km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の“むかし”と“いま”が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。

なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

旅人たちがひと息入れた宿

江戸を出て最初の難所といわれる、急坂「権太坂」の手前にあつた宿場です。当時、「権太坂」を登るつらさは厳しいもので、旅人の多くは保土ヶ谷宿で休息し、英気を養つてから坂越えに挑んだといわれています。宿場としては、慶長六年（一六〇一年）に成立しましたが、東海道自体のルート変更に伴って、慶安年間（一六四八～五二年）に東へ移り、新町が形成されました。

東海道 徒歩版

ビール坂

明治26年（1893年）に東京麦酒がこの地でビールの醸造をはじめ、後に大日本ビール会社もこの地に湧出する清水を利用してビール等を製造していたことから、名づけられました。



4 神明社

天禄元年（970年）の創建と伝えられ、その後、裏山から現在の場所へ移動しました。伊勢神宮の御領地として寄進され「権太御厨（はんがやみくりや）」と呼ばれました。この「はんがや」が「ほどがや」の地名の由来ともされています。



8 御所台の井戸

鎌倉への道中、北条政子がこの井戸の水を飲み、休んだとされており、明治天皇が本陣で休憩された際にもこの井戸の水が使われたといわれています。



16 遍照寺

本尊の薬師如来坐像は、京都仁和寺喜多院の本尊と同木、同作の尊像と伝えられています。また、江戸時代の狂歌師朱楽菅江の「念佛百万遍供養塔」があります。（文化6年（1809年）建立）



7 金沢横丁道標

金沢道の道しるべを兼ねて北向きに建立されたといわれる地蔵尊です。

9 北向地蔵



6 遍照寺

反則

3 香象寺

こうそうじ

江戸田

寺子屋

保土ヶ

德川家康の側室「お万の方」お手植えといわれるざくろの木があります。

地図の凡例

■ 旧東海道 ■ 宿内 ■ 一般国道



17 武相国境モニュメント

この地が武藏国と相模国の境であり、昔は木の杭が立てられていたので境木といいます。このモニュメントは平成17年に設置されました。

10 ほんじんあと 本陣跡

本陣は代々軻部家(明治初年に軻部家に改姓)がつとめました。現在は当時を偲ばせる通用門や土蔵が残っています。



保土ヶ谷の イベント情報

●保土ヶ谷宿場まつり(保土ヶ谷駅周辺／10月上旬)

*保土ヶ谷宿場まつりは地元商店街を中心となり、開催されており、開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者へご確認ください。



13 とがわじんじゃ 外川神社

「お仙人様」の名で親しまれ、子供の虫封じに効き目があるといわれています。



6 たいしゃくとんどう 帝釈天堂

お堂の中に「庚申講」や「地神講」の祭事に使われた掛け軸が祀られています。また、堂外には多くの石仏、石塔が安置されています。

15 じゅげんじ 樹源寺

鎌倉時代に建てられた医王寺が焼失した後、江戸時代初期に軻部家により身延山久遠寺の末寺として開山されました。

1:10,000
500m

1000m

14 まつなみ き 松並木

平成18年12月、市民と行政の協働で、黒松32本が植樹され、松並木がよみがえりました。この付近には一里塚と上方見附があつたことから、一里塚のミニチュアも復元されています。

12 はたご ほんかね こ やあと 旅籠本金子屋跡

明治2年(1869年)に建てなおされました。江戸時代の旅籠のたたずまいをしのばせる建物です。



13 王子神社

護良親王は後醍醐天皇の皇子でその御首が本殿の下に葬られたという伝説があります。



1 萩原代官屋敷跡

萩原家は代々旗本杉浦氏の代官をつとめ、幕末にはこの場所に道場を開きました。現在は武家屋敷門と蔵が残っています。



結ぶ道で、江戸

で賑わいまし
て点に近いこの
の入口となつた



2 品濃一里塚

県内でほぼ完全な形
で残っている、唯一の
一里塚。



18 境木地蔵尊

万治2年(1659年)の建立といわれ、江戸からの講中や道中の安全を祈る旅人が多く参拝しました。現在のお堂は関東大震災後に再建されました。



41 km

3 王子神社

横浜市・戸塚区

益田家のモチの大木
護良親王洗井戸



戸塚のイベント情報

- 戸塚桜まつり(4月上旬)
- 例祭おまき(八坂神社／7月14日)
女装した男子10数人が唄を唄しながら町内を歩き、各所で5色のお札を団扇で煽って天に舞わせます。
(横浜市指定無形民俗文化財)

※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、
主催者へご確認ください。

江戸から約十里。
最初の宿泊に
ちょうど切りのいい宿。
朝四時ごろに出発して、夕暮れには宿に入
る。約十里(約四十キロ)が一般的とされてい
た昔の旅の一日の行程。

戸塚宿は、江戸からちょうどこの十里の距
離に位置することと、保土ヶ谷宿～藤沢宿
間が比較的長いこと、江戸寄りの「権太坂」
と京寄りの「大坂」の二つの難所に挟まれて
いることから、ここで泊まる人が多く、大きな

東海道 知つ得 瓦版

日本人による ハム作りはじまりの地

明治初期、日本で初めてハムの製造販売がこの地で始められました。当時、戸塚は鎌倉

郡に属していたので「鎌倉ハム」として全国的に知されました。斎藤満平は英国人ウイリアム・カーチスの妻・加藤かねの協力で製法を学び、明治10年代、日本人として始めて、ハムの製造を始めました。写真のこの建物は、ハムの製造および冷蔵に使われていたものです。



益田家のモチの大木

樹齢はおよそ300年と推定され、県の天然記念物に指定されています。



10 清源院・芭蕉句碑

徳川家康の死後、側室であった「お万の方」が尼となり、当寺に入りました。境内には芭蕉句碑など貴重な碑が数多く残っています。



6 五太夫橋

小田原北条氏の家臣であった石巻五太夫が、小田原北条氏滅亡後に江戸へ移る徳川家康をこのあたりで出迎えたことから名付けられたと伝えられています。



5 護良親王首洗井戸

護良親王の御首を洗ったといわれる井戸です。



4 大山道道標

大山道は各地と大山を結ぶ道で、江戸時代に大山詣をする人で賑わいました。国道1号不動坂交差点に近いこの地は、当時の大山道への入口となった場所です。



7 宝蔵院

本尊は不動明王。木食観正（もくじきかんしょう）碑や徳本人名号碑などがあります。



8 大橋

歌川広重が描いた『東海道五十三次戸塚』は、この大橋のたもとです。昭和61年に改修。大名行列が持つ長柄のバレンを模した街灯や橋の両側の4枚の浮世絵の模写など、東海道をイメージした橋です。



9 善了寺

モダンな本堂と歴史ある浄土真宗本願寺派のお寺です。明治には、自由民権運動の仲間が坂の道をあがってきたことがあります。正面に親鸞聖人像があります。



3 お王
護御
説

離に位置することと、保土ヶ谷宿・藤沢宿間が比較的長いこと、江戸寄りの「權太坂」と京寄りの「大坂」の二つの難所に挟まれていることから、ここで泊まる人が多く、大きな賑わいを見せました。さらに戸塚宿は、大山道・鎌倉往還との分岐点でもあり、大山への参拝客や鎌倉の古寺を訪れる人々にも高い人気を誇っていました。